SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

文雅の交―江戸時代後期大坂における大名・豪商・文人のネットワーク

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学 公開日: 2018-11-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高松, 良幸 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00025942

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成　２９　年　　６　月　２１　日現在

機関番号：　１３８０１
研究種目：　基盤研究(C)（一般）
研究期間：　2014～2016
課題番号：　２６３７０１３０

研究課題名（和文）文雅の交―江戸時代後期大坂における大名・豪商・文人のネットワーク

研究課題名（英文）The cultural relationship between Daimyos, wealthy merchants, and intellectuals at Osaka in the Late Edo Period

研究代表者

高松　良幸（Takamatsu, Yoshiyuki）

静岡大学・情報学部・教授

研究者番号：４０３１０６６９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、江戸時代後期大坂において大名・豪商・文人・画家たちが、どのような文芸交流活動を行ってきたかについて、以下の3つの事例の検証を試みたものである。
1）「食野一統と八州軒に関する研究」では、唐金興隆、和田隆侯など食野一統の人物像と彼らと諸大名の関係、文人等の支援活動を検証した。　2）「柳沢伊信と西村孟清の交流に関する研究」では大坂の豪商袴屋仁右衛門の名で知られる西村孟清と大和郡山藩主柳沢伊信の書画典籍等の贈答等の実態について検証した。　3）「『楽翁画帖』（平野美術館）の調査研究」では、松平定信の下で制作された同画帖の概要とともに、それに協力した木村蒹葭堂等の活動について考察した。

研究成果の概要（英文）：　The purpose of this study is to seek the cultural relationship between Daimyos, wealthy merchants, and intellectuals at Osaka in the Late Edo Period, by investigation of the following three cases.
1)“A study about the House of Meshino and Hasshu-ken” investigated cultural activities of Karakane Kouryu, Wada Ryukou, and other members of Meshino and Karakane families, and considered the influence of their cultural activities on their businesses.　2)“A study about the relationship between Yanagisawa Korenobu and Nishimura Mousei” investigated the cultural relatition between lord Yanagisawa Korenobu and wealthy merchant Nishimura Mousei.　3)“A study about《Rakuou Gajou》(Rakuou's Album) owned by Hirano Art Museum” studeied《Rakuou-Gajou》which is a collection album of 194 painting works collected by Matsudaira Sadanobu who was known as a leader of “Kansei Reform”, and concerned cultural activities of Matsudaira Sadanobu and his collaborator Kimura Kenkado.

研究分野：　日本美術史・博物館学

キーワード：　日本・東洋美術史　パトロン文化　食野一統　西村孟清　松平定信　楽翁画帖

１．研究開始当初の背景

江戸時代の大坂は、全国の物流の拠点として、例えば絵画なども含め、清から長崎に輸入された物産は、幕府による買い上げなど以外は大半が大坂の唐物問屋などに引き取られ、その後全国に流通していくというシステムであった。長崎・大坂間の流通システムは、単に唐物の移動だけではなく、中国趣味に関する人と情報のネットワークを形成したとも想像される。江戸後期の沈南蘋画風、南画の流行の拠点として大坂が重きをなしたのは、このようなシステムに依拠するところが大きいと考える。富商にして江戸後期大坂を代表する文化人である木村蒹葭堂が、清などからの輸入品も含めた膨大なコレクションを作りえたのも、このような環境を抜きにして考えられないことである。また蒹葭堂以外にも、唐物を収集し中国趣味を有する大坂の富商は多かった。

ところで近年、江戸時代後期における中国趣味の流行が論じられる中で、柳沢伊信（信鵬）、増山雪斎ら南蘋風の作品を遺した大名たちへの関心が高まっている。ここで注目されることは、柳沢伊信と大坂の富商で混沌詩社の漢詩人としても活躍した西村孟清（袴屋仁右衛門）との間で絵画や書籍などの贈答を行っていること、木村兼葭堂が家業の造酒に関して過醸の咎を受けた時、これを庇護したのが増山雪斎であったこと、その雪斎の儒臣で南画家としても知られる十時梅厓と親密な交際を有したのが、鴻池家・三井家などと並ぶ江戸時代を代表する富商であった食野家の当主食野青圃であったことなど、中国趣味を介した大名と大坂の富商との「文雅の交」の事例は数多い。しかし、このような大名と富商の関係は、どのようにして発生したのだろうか。

江戸時代後半期、多くの大名は多大の借財を抱え、富商による大名貸によって自藩財政を支えるということが常態化していた。大名の立場としては、藩財政の切り盛りのために、富商からの借財を継続することが必要であった。一方富商にとっては、大名貸の担保として貸出先の藩の産物の取扱権の保障などを求めることで、事業の継続、発展が期待できた。このような相互依存関係が、身分を超えた「文雅の交」が発生した一因ではなかろうか。

２．研究の目的

本研究は、江戸時代後期大坂において大名・豪商・文人・画家たちが、どのような文芸交流活動を行ってきたかについて、具体的な３つの事例の検証を通じて、明らかにしようとするものである。

本研究で取り上げる大名や大坂豪商たちは、漢詩文や南画、沈南蘋派の絵画など中国趣味に多大の関心を有していた者たちであった。江戸後期、文芸における中国趣味は全国的な広まりを見せていた。その中心地の１つである大坂の富商たちと、諸大名の具体的な中国趣味に関する交流活動の実態を明らかにすることによって、江戸時代後期における中国趣味流行の原因、またその特徴などを検証することを目的とする。

具体的には以下の３つの事例を中心に検証する。

（１）食野家一統と八州軒に関する研究

江戸時代を通じて廻船・米問屋などの業務に従事し、鴻池家や三井家に比肩する富を誇った食野家の一統は、紀州藩の儒者で南画の創始者の一人である祇園南海のパトロン的存在であった唐金梅所、増山雪斎の儒臣十時梅厓の庇護者であった食野青圃、寛政期に日本各地の実景図を数多く収集した和田隆侯など、文雅に通じた人物を数多く輩出した。このような食野家一統のパトロン活動の象徴と言えるのが、江戸中期、同家が大坂西郊の春日出新田に設け、数多くの文人・画家が出入りした新田会所（のち「八州軒」と称される）である。その建物は、紀州徳川家から食野家に下賜された巌出御殿（現和歌山県岩出市）の建物を紀州から移築したものと伝承され、近代になって数寄者原三渓の有に帰し、臨春閣と名付けられて、その旧邸三渓園（横浜市）に現存している。

臨春閣の障壁画の多くは、狩野探幽・常信・周信ら江戸時代前・中期の狩野派の画家が制作した屏風を障壁画に改装したものと見られている。また、室内の欄間などに貼り付けられている和歌色紙などの大半は、18世紀前半の公家などの筆と見られる。以上の事実から、臨春閣の内装は、紀州家から食野家が建物を拝領、移築ものであるとすれば、食野家によって改装された部分が数多いと推測される。

本研究では、この建物の来歴について、従来の研究成果を再検討するとともに、八州軒における大名、豪商、文人、画家の交流の実態について検証する。あわせて、唐金梅所、食野青圃、和田隆侯を含め、同家一統の文芸支援活動の実態について考察する。

（２）柳沢伊信と西村孟清の交流に関する研究

大和郡山藩主であった柳沢伊信は文雅の道に優れ、画家としても沈南蘋風の作品を多数遺していることで知られている。この柳沢伊信から、大坂の富商で混沌詩社にも参加した漢詩人でもあった西村孟清は、たびたびその作品を拝領している。その背景の一つには、柳沢家の財政に対する西村孟清の貢献の可能性が想定される。

柳沢伊信の美術関係の事跡について、彼の日記である『松平美濃守日記』、『宴遊日記』、『松鶴日記』から記事を抜粋してデータベース化するとともに、彼の現存作品のうち、日記の記事に該当するものを明らかにする。

（３）「楽翁画帖」の調査研究

「楽翁画帖」（平野美術館）は、松平定信が寛政 12 年（1800）から翌享和元年頃に収

集した全国の著名・無名の画家約 190 名の作品（全 194 図）を集成して作成されたと推定される作品である。このうち、松前藩主の子で同藩家老であった蠣崎波響の「水芭蕉図」には、「庚申後四月十二日製於浪泊之蒹葭堂中　崘前波響」の款記がある。また、同日の『蒹葭堂日記』には、波響が訪問者として記録されている。波響が寛政 12 年閏 4 月 12 日、大坂の木村蒹葭堂邸で本図を描いたことがわかるが、これは、大名である定信の絵画収集のコーディネートを大坂の商人である蒹葭堂が手掛け、それに他藩の家老である波響が応えたことを推測させる。ただ、「楽翁画帖」については、これまで展覧会等でその一部が紹介されたにすぎず、作品全体の基礎データや、制作の意図、経緯について、調査、検証は行われていない。

本研究においては、「楽翁画帖」の全体像に関する調査研究を進めるとともに、本作品制作とほぼ同時期に、定信が白河城内に設営した南湖の勝景に関する詩文を全国の文人から収集した事例などを参照しながら、「楽翁画帖」制作の意図、経緯について検討する。また、従来からよく知られている『集古十種』編纂など、松平定信の古書画・古器物等に関する調査、保存事業等において、大坂における豪商、文人などが果たした役割についても再検証を行う。

一方、蒹葭堂に関しては、定信以外にも、松浦静山、増山雪斎などの大名との親密な交友が確認されているほか、食野家一統、西村孟清ら多くの大坂豪商との交流が確認されている。大名・豪商などの文芸活動に文人・画家たちを結び付けるコーディネーターという観点から、蒹葭堂像の再検討を行う。

３．研究の方法

本研究は、３つの具体的な事例研究から構成されるものであり、研究期間中、これらを並行して進めていく。

（１）食野家一統と八州軒に関する研究

①臨春閣の調査研究

横浜三渓園の臨春閣の障壁画や欄間貼付色紙などの内装に関しては、食野家による改装が、多くの部分を占める可能性が先行研究により指摘されている。本研究では、食野家による改装部分等についての特定作業を進める。

②八州軒の利・活用に関する調査研究

漢詩人たちの詩文集をはじめ各種文献資料によると、八州軒は、食野家が関係する文人等に詩会などの場としてしばしば提供されたほか、諸大名や大坂城代などもこの場を訪れたと伝えられ、恰も食野家の迎賓館という形で利用されていたものと思われる。本研究では、八州軒の利用実態を諸資料から収集し、それを年表形式でデータベース化することで、八州軒の性格について考察する。

③食野家一統の文芸支援活動に関する調査研究

食野家一統の歴代は、文人や画家たちと豊富な交流を有したことは、詩文集をはじめとする各種文献資料から窺うことができる。また、同家の本拠地である泉南地域の寺社などには、食野家の寄進となる美術作品等も散見できる。これらについても、その文献調査、現地における作品調査等を実施し、調査成果を年表形式でデータベース化する。なお、調査対象としては、食野家だけではなく、食野家とは江戸時代を通じて婚姻、養子縁組を繰り返していた唐金家、江戸中期以降唐金家と婚姻、養子縁組を繰り返した和田家（辰巳屋久左衛門家）についても調査対象とする。

④食野家一統と紀州徳川家ほか諸大名の関係に関する調査研究

食野家一統は、紀州徳川家と大名貸や紀州藩への大坂藩邸貸与などの活動で深い関係を有していた。御殿建物の下賜が実施された理由を考察するため、両者の経済的な関係に関する資料の収集分析を実施する。調査対象は、紀州藩関係の資料のほか、「食野家関係資料」（国文学資料館）等を予定している。あわせて、食野家一統の経済活動に関する資料も、可能な限り収集する。

（２）柳沢伊信と西村孟清の交流に関する研究

①柳沢伊信の日記に関する調査研究

柳沢伊信の日記のうち『宴遊日記』・『松鶴日記』は、それぞれ活字本・影印本の形で公刊されているが、『松平美濃守日記』については未公刊である。所蔵先の柳沢文庫においての現地調査、解読の作業を進める。また、すでに調査活動を進めている公刊済みの２種の日記とともに、美術・芸活動等に関する記事を、年表形式のデータベースとして纏める。

②柳沢伊信と西村孟清の交流に関する資料の調査

伊信から孟清に対する絵画の下賜などに関する記録は、伊信の日記以外に孟清に関連する詩文集などに散見される。これらについてはその多くを収集しているが、遺漏がないかを確認する。また、伊信が孟清に贈った花鳥図に関し、孟清が周辺の詩人から集めた賛詩を収録した「題画詩巻」が東京国立博物館に収蔵されている。可能であれば、この作品についての調査を実施する。

（３）「楽翁画帖」の調査研究

①平野美術館蔵「楽翁画帖」に関する調査研究

この作品に関する予備的な調査は、すでに実施しているが、所蔵館の許可を得て、高精細デジタルカメラによる撮影、画像データベース化の作業を実施する。あわせて、筆者の判明しない画家について、その伝歴、作品等の調査を行う。

②松平定信による書画収集に関する研究

「楽翁画帖」が作られた時期、定信は白河

城内に人工湖である南湖を造営し、その勝景に対する賛詩を、多くの文人などから集めていた。また、柴野栗山、住吉広行、谷文晁等に命じて実施させた古書画・古器物に関する調査の成果である『集古十種』や『古画類聚』の編纂作業も進められていた。これらに関しては、先行の研究事例を参照するとともに、定信側近の広瀬蒙斎らの記録などもあわせて調査することで、定信のコレクション活動の特質について分析する。

（４）研究の取り纏めと報告
公式の研究成果報告書とは別に、上記各項目の詳細な研究成果を電子書籍形式（PDF ファイル）の研究成果報告書別冊に取り纏め、高松が運営するホームページ上で公開する。

４．研究成果
本研究の主たる研究成果の概要は以下のとおりである。

（１）食野家一統と八州軒に関する研究
食野一統の事跡に関する研究の各項目に関する成果の概要は以下のとおりであるが、その詳細については下記図書所収の「4．徳川家斉が見た理想の富士と実像の富士」のほか、2018 年発行予定の論文「文雅の家系としての食野一統―唐金興隆・和田隆侯を中心に」(印刷中) においてその一部を詳述する。
①臨春閣の調査研究
現在三溪園臨春閣と称されている建物については、前身が食野家の大坂における別邸であった春日出新田会所であり、これは紀州徳川家の巌出御殿を移築したものであるという藤岡通夫氏の説が従来定説化していた。しかし近年、この建物の障壁画の大半が江戸時代前・中期の狩野派の屏風絵作品を改装したものであるという鈴木廣之氏の説が提起されるとともに、西和夫氏は、巌出御殿移築説についても否定的な見解を示されている。本研究では、巌出御殿移築説の当否について回答を得ることは出来なかったものの、18 世紀前期には食野一統の別荘が春日出新田にあった可能性が高いこと、この建物を春日出新田に設営するにあたり、食野家が屏風絵等を改装する形で設置した障壁画が現在の臨春閣の障壁画の主要部分をなすことなどを確認した。
②八州軒の利・活用に関する調査研究
食野家が所有していた当時の春日出新田会所については、「春日出新田支配人唐金利右衛門手控」に、同所を訪れた大坂城代や幕府役人等の記録があること、『兼葭堂日記』等に同所を訪問した文人等の記録があることなどが確認された。またこの建物が天保年間、食野家の手を離れ豊島屋（広海家）の所有となった以降も、幕府役人や詩文家等の訪問があったことが『大坂代官竹垣直道日記』などの資料により確認することができた。
これらのことから、この建物が、食野家の所有当時から幕府役人、諸大名などの応接の場という機能を有するとともに、文人たちとの交流の場としても活用されたことを明らかにすることができた。
③食野家一統の文芸支援活動に関する調査研究
食野一統の中で最も早い時期から文芸との繋がりを有し、その名を知られていたのは唐金興隆（梅所）である。その活動は日本における南画草創期の代表的な画家祇園南海の支援者として知られているほか、伊藤東涯、新井白石、室鳩巣、雨森芳洲、梁田蛻巌など 18 世紀前期の全国の儒学者、漢詩人との交流、さらに正徳度朝鮮通信使製述官李東郭との詩文の交換など極めて幅広いものであることが従来から知られてきた。本研究ではそれらの事跡について詩文集や書簡集等の資料整理を行うとともに、その事跡が没後もさまざまな文人によって知られていたことを後世の漢詩人の詩文集等より明らかにした。
また梅所著の「垂祐堂家訓」は、梅所が子孫に書き遺した家訓であるが、家業に対する取り組みを重視する同時期の他の豪商の家訓とは異なり、家業とともに学問、文芸、諸芸道などの趣味を人生の楽しみとして重視する姿勢が示されており、このような人生哲学が梅所以降の食野一統の人々にも継承されたことが、この一統から歴代多くの文人支援者を産み出した理由にあげられるのではないかと推測した。
このほか、梅所の弟で牡丹栽培を趣味とし、その牡丹が将軍徳川吉宗に献じられたことで知られる唐金政則（楽水）の事跡、梅所の姪の子である食野元琅（伯玉）の文人支援の事跡、伯玉の子である食野常辰（青圃）の十時梅厓をはじめとする文人との交流の事跡など、食野一統の諸人物についての資料整理を行った。
さらに、唐金楽水の孫で大阪の豪商辰巳屋久左衛門家の養子となった和田隆侯については、その写実的風景画の蒐集活動やそれを通じての松平定信とも交流についてまとめるとともに、同時代の文人や画家との交流に関する資料整理を行った。
④食野家一統と紀州徳川家ほか諸大名の関係に関する調査研究
食野一統の経済活動については、北は蝦夷、東北から、西は九州、対馬に及ぶ廻船を主体に、その主たる取扱商品である米の取引、これらの業務に関連する大名貸などの金融など極めて幅広いもので、その多くが全国の諸大名と結びついていたことは従来から指摘されてきた。本研究ではこれらに関する先行研究を踏まえつつ、その商業的発展が 17 世紀後期以降であることを明らかにし、その契機となったのが河村瑞賢の東廻り、西廻り航路の開発と期を一にするものであること、また発祥時泉州泉佐野を拠点としていた食野一統が大坂に置いた拠点が河村瑞賢によって開発された南堀江であることなどに着目

し、一統の発展の蔭には河村瑞賢の存在があったのではないかと推測した。

（２）柳沢伊信と西村孟清の交流に関する研究

この項目に関する研究成果の概要は以下のとおりであるが、詳細についてはホームページ「近世大坂―豪商と美術―」ならびに論文において公開を準備中である。

①柳沢伊信の日記に関する調査研究

柳沢伊信の『松平美濃守日記』、『宴遊日記』、『松鶴日記』について美術関係の記事の収集とそのデータベース化を進めるとともに、特に西村孟清関係の記事の整理を行った。

②柳沢伊信と西村孟清の交流に関する資料の調査

柳沢伊信から西村孟清に対する書画等の下賜に関しては、伊信の日記に記述があるだけでなく孟清も所属した大坂の作詩結社混沌詩社に関連する詩人たちの詩文集にも多くの記録がある。これらの資料の収集、整理を実施した。また東京国立博物館蔵「題画詩巻」については、研究期間中の調査は実施できなかったが、以前に同館で展示された際の観察記録や写真によりその概要の取りまとめを行った。

（３）「楽翁画帖」の調査研究

この項目に関する研究成果の概要は以下のとおりであるが、詳細については下記論文「『楽翁画帖』について」で紹介した。また、同作品所蔵の平野美術館で研究代表者の監修により開催した特別展「江戸時代の文人ネットワーク―松平定信から遠州南画の画家たちへ―」(平成 27 年 4 月 4 日～5 月 31 日)で、その内容の一部を公開した。

①平野美術館蔵「楽翁画帖」に関する調査研究

平野美術館所蔵の「楽翁画帖」について、所収 194 図の調査を実施した。また、194 図の作者の画家についてその伝歴等に関する調査研究をあわせて実施したが、現状なお 30%の画家については伝歴不詳であり、その調査研究を継続実施中である。

なお、研究期間中に「楽翁画帖」とともに制作されたと見られる書跡を集成した書巻「楽翁法帖」(巻子 1 巻、31 紙)が発見され、平野美術館に収蔵された。この作品の調査も並行して実施し、その成果に関する論文を 2018 年に発表する予定である。

②松平定信による書画収集に関する研究

「楽翁画帖」所収の有年記作品と、松平定信配下の画家による『集古十種』所収文化財調査や、全国各地の写実的風景画制作の旅の旅程の比較検討を行い、「楽翁画帖」所収作品のうち、少なくとも京・大坂・山陽方面の画家による作品は、寛政 12 年に定信配下の白雲・大野文泉によるこの方面への旅の途次に収集されたものであると推測した。また特に大坂における作品の収集には木村蒹葭堂がコーディネーター的な役割を果たしていたことを明らかにした。

（４）研究の取り纏めと報告

上記 3 項目に関する研究成果について、この研究成果報告書とは別に「研究成果報告書（別冊）」を取り纏めている。また、下記ホームページに本研究に関する主要なデータを取り纏め公開する予定である。

これらの公開は、2017 年度のできるだけ早い時期を目途に、現在その作業を進めている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　2 件）

①髙松良幸，「楽翁画帖」について，静岡大学情報学研究，査読有，21 巻，2016 年，98 頁～83 頁，
http://doi.org/10.14945/00009450
②髙松良幸，永禄三年の車争い図屏風，静岡大学情報学研究，査読有，20 巻，2015 年，72 頁～51 頁，
http://doi.org/10.14945/00008191

〔学会発表〕（計　0 件）

〔図書〕（計　1 件）

髙松良幸，III.富士山学特別寄稿　4．徳川家斉が見た理想の富士と実像の富士，放送大学静岡学習センター編，放送大学静岡学習センター，学長裁量経費Ⅲ（地域貢献プロジェクト）　「富士山学」の構築と地域リーダーの育成報告書，2016 年，78 頁～86 頁
http://www.ouj.ac.jp/pj/pdf/2015/shizuoka002.pdf

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
近世大坂―豪商と美術―
http://www5f.biglobe.ne.jp/~bunkazai/kinsei-works/osaka_study.html
展覧会
特別展「江戸時代の文人ネットワーク―松平定信から遠州南画の画家たちへ―」(2015 年 4 月 4 日～5 月 31 日、平野美術館)

６．研究組織
(1)研究代表者
髙松　良幸　（Takamatsu, Yoahiyuki）
静岡大学・情報学部・教授
研究者番号：40310669

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：

(4)研究協力者
(　　)